

令和六年 第1回 2/14 (水) 臨終

地の巻「報徳の法則」

第五編 無戯かぎ 倦戯する 勤儉の法則

一三四 p.160 精小為大 (千里の道も一歩から)

一三五 p.160 家を興すもの精小なり

一三六 p.161 米作の精小為大 (一畝さう耕すところから世がある)

一三七 p.161 小事を飾るを

一三八 p.162 一くわの手あから

昔まく木の葉大木とちうけり

一三九 p.163 今まく木の葉後の木あむし

大道のち回御人

○大行は細謹と願ふ、豪傑はりか大膽のことは

○李氏富治りし固公こ。而亦世為之聚斂しゆ而附益之す

子回し御ご徒た也。小こ子鳴鼓な而攻せ之を可べ也。p.149

知世の術は勤儉・讓

(先通)せん十一

一三一 p.165 勤儉讓はかたえのニ事足

一三二 家業け出精、欲は抑制、一農工畜いみんを同し

一三三 勤情、貧福の相

一三四 p.167 先んいりて即後する

先んいんを削くば人に削せらる。

一三五 p.168 富國の世運道、富國の大木、(吝嗇しん吝しんとはちうり)

一三六 p.168 毫厘の差、千里の遠い

